「変わらなければ」と生徒に思わせる 2年生夏休みの意識付け

時期の特徴 教師も生徒も多忙で、進路指導や学習に向けた手立てが講じにくい。志望校もあいまいで、模試の結果も出ていないため、生徒は自分の学力を客観的に捉えられていない。

指導のポイント 生徒に志望校や今の学習状況を客観的に捉えさせ、目標に向けた計画的な学習に挑戦させる。その成果を振り返らせることで、「変わらなければいけない」と思わせる。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

対教師へのデータ

教師間で意義を目線合わせし オープンキャンパスの価値を高める

目的別データ活用

1 オープンキャンパスの意義を学年団で確認、共有する

→ 図1

◎2年生夏休みのオープンキャンパス参加は、大学進学を具体的に考え始める契機として重要である。訪問する大学が「仮」の志望校でも、選択肢の1つとして意識することで、日々の学習が入試を意識したものになるからだ。だが、オープンキャンパス参加を勧めていても、事前・事後指導が不十分な場合もあるようだ。参加することで自分にどんな成長が期待できるのかを生徒が理解していなければ、意義ある取り組みにはならない。そこで、学年団でオープンキャンパス参加の目的と事前・事後指導のポイントについて確認、共有する。

2 志望校選びで大切にしたいことを考えさせる

→ 図1

◎オープンキャンパスに参加し、大学ならではの雰囲気を味わうことで、生徒の大学への興味・関心は喚起される。だが、より重要なのは、生徒が自身の進路観と向き合い、「この先、志望校を考えていく時に、自分として譲れないポイント、大切にしたいことは何か」を考えることだ。そのため、事前・事後指導を通した生徒自身の内省が重要になる。オープンキャンパス参加前に大学進学の目的を整理し、参加後の気付きを振り返ることを通して、志望校選択で大切にしたいことが、学びたい学問や就きたい職業などと矛盾していないかを確認させる。

データを用いた指導の流れ

STEP 1
◎オープンキャンパス参加の意義や指導の観点について、学年団で目線合わせする（図1）

STEP 2
◎学年集会などで生徒にオープンキャンパス参加の意義を伝えると共に、クラスで担任からも発信する。重ねて伝えることで生徒の意識に定着させていく

STEP 3
◎十分に意義を示した上で、「オープンキャンパス準備・報告シート」（図1）を渡し、生徒に考えさせながら記入をさせる

STEP 4
◎夏休み明けに面談などで活用。シートを各クラスでまとめ、閲覧できるようにすると、仲間の体験を通して視野をより広げられる

図1　オープンキャンパス指導の観点と「オープンキャンパス準備・報告シート」　ダウンロード

準備シート（参加前に記入する）

1. 夏休みに見学する予定の大学名　※複数の場合はすべて記入

（○○大学）

2. その大学で、どのような学問が学べそうか

（映像編集やデータ処理などの実践的な内容が多く学べそう）

3. その大学で、目指す職業や資格に近付けそうか

（マスコミ関連の会社やIT系の企業への就職者が多いと言われている）

4. オープンキャンパスで知りたいこと、確かめたいこと

（コンピュータを使った授業がどんな施設で行われるのか）

報告シート（参加後に記入する）

1. 見学して分かったその大学の良さ

（周辺に大学がいくつかあり いろんな大学と研究でも交流があること）

2. その大学で学問に取り組む際のメリット・デメリット

（社会人を招いた授業が多く 実践的な力が身に付きそう）

3. その大学を出て就職したり、資格取得したりする際のメリット・デメリット

（企業研究などは1年からサポートしてくれる 希望者の割にマスコミへの就職率は低い）

4. 志望校を選ぶ際に、大切にしたいこと

（実習が多く、社会で役立つ力が身に付く授業がある大学に行きたい）

指導上のポイント

学年団の目線合わせ

- オープンキャンパス参加で期待する生徒の変化
- 生徒の変化を促進するための事前・事後指導の内容と時期
- 参加の呼び掛け方法と、参加率の目標

↓

生徒への事前指導（調べさせる内容）

- 学びたい学問は、その大学ではどんな学部・学科で学べるか
- 就きたい職業への就職率や取得したい資格の合格率
- 入試科目や難易度（可能であれば過去問題に目を通す）
- その大学の特徴（他大学と比べての良さは何か）

↓

生徒への事後指導（考えさせたり、理解させたりする内容）

- 自分の目で確かめる重要性（大学案内やホームページでは分からないこともある）
- 多くの大学を比較して自分に合った大学を探す必要性
- 入試難易度の幅を持たせていろいろな大学を見る大切さ
- 志望校を考える際、自分が大切にしたいことと、その優先順位

ダウンロード　このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
http://benesse.jp/berd/　→HOME＞情報誌ライブラリ（高校向け）＞生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

保護者も巻き込むオープンキャンパスとする

３年生になる前に、生徒だけでなく、保護者にもさまざまな大学を見て視野を広げてもらう必要がある。中には生徒の志望が固まってから、「地元の国公立大にも工学部があるのに、なぜ離れた地域の工学部を志望するのか？」などと反対する保護者もいる。生徒の志望の最大の理解者となってもらうため、生徒と一緒に志望大へ足を運んでもらう。

新しい取り組みだけでなく、取り組みの質を高めていく

多忙化の中、これ以上新たな取り組みを行うことが難しい状況にある学校も多いだろう。そんな中だからこそ、既存の取り組みの質を高め、どうすれば最大の効果が発揮できるのかを教師間で目線合わせしたい。多くの高校が活用しているオープンキャンパス参加という取り組みにおいても、生徒のかかわりの質を高めるという観点で検討をし直したい。

一歩を踏み出せない生徒は徐々に意識を高めさせる

オープンキャンパスに行くことや、進路志望調査などで大学名を書くことで、「自分の志望校はもう変えられない」と思い込む生徒は意外に多い。オープンキャンパス参加を進路を考える上での重荷と考えている生徒には、「決定」ではなく「設定」なのだと伝え、「夏に行けなければ、秋の大学祭で大学を見に行こう」と次の機会を示して徐々に意識を高めさせる。

対生徒への データ

計画的な学習に挑戦させて「このままではまずい」と心に火をつける

目的別データ活用

1 自らの実態を分析させて学習計画に落とさせる

……> 図2

◎夏休み、与えられた課題に漫然と取り組むだけでは、受験に向けて必要となる「自立的に学習を進める力」は身に付きにくい。そこで２年生の夏休みを、生徒自身に今、自分には何が必要かを考えさせ、それに見合った具体的な計画を立てさせる機会とする。学習成果につながる計画に落とし込むためには、今の自分と目標までのギャップをイメージし、必要な学習を考えていくことがポイントになる。得意分野を伸ばす、苦手分野を克服するなど、教科ごとの詳細な目標と、そこで利用する教材を考えた上で、１週間程度の中期的な学習計画を立ててみるように指導する。

2 失敗経験を危機感に変え生徒の変化を促す

……> 図2

◎夏休み前に立てた具体的な学習計画に挑戦してみると、多くの生徒は計画通りに学習を進めることの難しさを実感するはずだ。「やれば出来ると思っていたが、やること自体が難しい」と危機感を持たせ、入試まで時間のある２年生の段階で「このままではまずい」と思わせたい。「思った通りに出来ないことを、今のうちに知ったことが大きな収穫だ」と面談などで声を掛け、３年生の夏休みで計画的な学習を成功させるための、意味ある失敗経験と理解させる。成果を急がなくてもよいこの時期だからできる、「生徒の気付きを待つ指導」と言える。

データ活用の流れ

STEP 1
◎この時期に自分の姿を客観的に把握することが必要だと生徒に伝え、「実態把握・学習記録シート」（図２）の前半に学習状況や志望校を記入させる

STEP 2
◎生徒から回収したシート（図２）を分析し、生徒把握を行う。面談で夏休みの目標、強化ポイントについて生徒と目線合わせする

STEP 3
◎生徒にシート（図２）の後半部分に面談での話を踏まえて夏休みの学習計画を記入させる。そして、学習記録を正直に書くように伝える

STEP 4
◎夏休み明け（可能なら夏休み中に一度）にシート（図２）を回収し、出来なかった部分を確認する。その理由と以降の手立てを生徒に考えさせる

ウェブサイトからダウンロード！

生徒指導・進路指導ツール集

Benesse® 教育研究開発センター

http://benesse.jp/berd/

生きたデータの徹底活用 検索 クリック！

HOME→情報誌ライブラリ（高校向け）→ 生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料がダウンロードできます！

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトでご覧いただけます。

- ●2008年9月号「2年生夏休み明けの意識付け」
- ●2009年6月号「2年生夏の進路意識向上と生活習慣の確立」
- ●2010年9月号「2年生夏休み後の切り替えと秋からの進路意識の醸成」

図2　現状を把握し、夏休みの計画に落とし込む「実態把握・学習記録シート」　ダウンロード

◎時刻、時間を記入しなさい（平日）

- 起床時刻　7:00　　帰宅時刻　19:00
- 就寝時刻　23:00　　家庭学習開始時刻　21:00
- 家庭学習時間　2 時間 0 分

◎苦手科目対策について記入しなさい

- 一番苦手な科目　英語
- 克服のために今取り組んでいること　（文法の基礎を固める）
- 次に苦手な科目　古文
- 克服のために今取り組んでいること　（単語を覚える）

◎志望校について記入しなさい

- 第1志望大学・学部・学科名
（○○大学 文学部 心理学科）
- 自分がイメージしている第1志望校との学力ギャップ

大きな努力が必要 ― 少し努力が必要 ― 実力相応 ― 少し学力が上回る ― かなり学力が上回る

- 第1志望校合格のために、今後、必要だと思う学習
（入試で重視される英語を得意科目にしたい）

◎上記を踏まえて夏休みの学習計画を立て、実際に行った学習を記入しなさい

月日	曜	学校行事など	上段：学習計画／下段：学習記録
7/25	水	午前中は補習 午後は部活	上段：補習（古文）／英語（文法）／英語（長文） 下段：補習（古文）／英文法のテキスト3P／英文法の続き1P
7/26	木		

1週間を振り返って

計画上の学習時間の合計　30 時間 0 分
実際の学習時間の合計　17 時間 0 分
その差は　＋ − 13 時間 0 分

出来たこと
出来なかったこと　友達い時間は思ったほど勉強できなかった

ダウンロード　このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
http://benesse.jp/berd/　→HOME ＞情報誌ライブラリ（高校向け）＞生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

課題量をすり合わせ、生徒の学習時間を調整する

各教科がそれぞれに課題を出し、生徒が期日内に終わらない量になってしまったという事態は起こりがちだ。学年内で各教科がどんな課題を出しているのかを一覧にまとめ、課題をこなすだけで生徒がどれだけ時間を費やすかを予測して調整する。与えられた課題をこなすだけでなく、主体的に学習に取り組む姿勢を育むには必要な視点だ。

「勉強をする時間」を自律的に確保させる

「2年生のうちは、部活動の練習がない日に勉強すればよい」と考える生徒は多い。しかし、余った時間に勉強するだけでは自律した学習とはいえず、目標達成につながる保証はない。「この課題を終わらせるために○時間確保しなければいけない」といったように、具体的な目標設定をした上で、その達成までの道のりを見通し、生活スタイルの改善につなげていくことが大切だと理解させたい。

夏休みこそ「普通の生活」を意識させる

部活動に参加しておらず、夏休み中、学校に全く来ない生徒の中には、学校から気持ちが離れ、生活習慣を乱す者もいる。7月時点での生活習慣を維持して新学期を迎えることは、夏休み以降の学校生活を安定させるためにも非常に大切だ。生活習慣の面で特に気になる生徒は、登校日などに夏休み中の1日の過ごし方を確認するなど、こまめに声掛けを行っていきたい。